

令和4年度 宮崎県立宮崎北高等学校 学校関係者評価書 No.1

4段階評価 4 期待以上 3 ほぼ期待通り 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

評価分野	目標・計画 (P)	実践 (D)・改善 (A)	自己評価 (C)	関係者評価	学校関係者評価コメント
	評価指標	○成果と現状 ●課題と改善策			
学習指導に関する分野	生徒の能力・適性・進路に応じた教育課程、変化する大学入試に対応できる教育課程の編成に努める。新学習指導要領に基づく教育課程を編成する。	○新学習指導要領に基づいて作成した教育課程表に沿って、授業を実施した。 ●随時、検証しながら次年度以降の教育課程表に反映させる必要がある。 ●共通テストで情報の試験が実施されることを考慮したカリキュラムを、他校のカリキュラムも参考にしながら、検討する。(来年度の大学入試要項を受けて)	3	3.0	●これからも、変化し続ける大学入試の細かな情報を保護者ともしっかり共有できるようにしていきたい。我々の時代とは大きく異なり、多種多様な選択し、求める人材が変化している。
	生徒の進路目標や選択科目及び学力実態に応じた学級編成を行い、効果的で充実した学習指導に努め、学力の向上を目指す。	○1人1台端末活用の授業研修を実施中である。 ●1人1台端末活用の授業研修を通して、活用方法を共有し、各授業での実践を促す。	3	3.0	●端末の活用の成果が見えにくい。スタートしたばかりなので今後期待します。 ○一人一台端末が当たり前の教育になると思いますので有効活用をお願いします。 ●端末を通してでも構わないが、生徒一人一人の希望がしっかりと把握できるように努めて欲しい。常にコミュニケーションを。
	本校の教育活動の特色や成果を積極的かつ多角的にPRし、生徒確保に努める。	○パンフレットの作成時期を早めた。 ○オープンスクールでは、運営に関わる職員が少なく、対応が難しかったが、今年度は1600名ほどの生徒、保護者が参加した。 ○新たに、中学校向け説明会を実施した。 ●来年度のオープンスクールは、今年度よりも、生徒主体で行う。 ●今年度好評であった中学校向け説明会の開催時期、内容を再度検討する。	4	4.0	●志願状況等を考えると、この流れが維持できることを期待します。 ○学校を選べる時代と生徒の人数が減ってきていることから、学校アピールは今後必要となることから大事な取組になりそうです。 ○リニューアルしたHPを拝見した。北高の特徴がわかりやすく紹介されており好印象。今後も更新の頻度を高め、常に新鮮な情報を提供したい。また、現在のSNSの宣伝効果は既存の媒体よりも高い。積極的に活用したい。
	各校務分掌との連携を深め、校務支援システムの運用の円滑化を進め、教育活動の効率化に努める。	○年度始めのシステム登録作業を部内で分担した。 ●校務支援システムによる成績処理要領の校内共有を進める。	3	3.2	
	校内情報機器の管理に努め、情報セキュリティの保持とICT教育の充実を図る。	○県から配備された端末の管理・確認を月末に行った。 ●生徒に端末を貸し出す際の管理方法の工夫が必要である。 ●研究授業の内容を、教科内、校内全体で共有し、ICT教育の充実を図る。	3	3.0	●今後は環境整備も必要 ●大阪の病院の例であったように、ランサムウェア型の攻撃が後を絶たない。常に端末、サーバーのOS、セキュリティソフト、パッチなど最新なものに更新されているか、管理が必要である。

令和4年度 宮崎県立宮崎北高等学校 学校関係者評価書 No.2

4 段階評価 4 期待以上 3 ほぼ期待通り 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

評価分野	目標・計画 (P)	実践 (D)・改善 (A)	自己評価 (C)	関係者評価	学校関係者評価コメント
	評価指標	○成果と現状 ●課題と改善策			
生徒指導に関する分野	挨拶のできる生徒の育成、清潔で端正な容儀の徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>○覃思(たんし)を通して落ち着いて1日をスタートさせた。</li> <li>○生徒・保護者の意見を反映し、夏季から秋季、冬季へかけての服装容儀面の基準を作成した。校内の共通理解を図った。</li> <li>●8:00登校に関しては、自家用車送迎の時間設定を守っていただくよう保護者理解を呼びかけ、交通安全の視点からもゆとりをもって登校するよう生徒に呼びかける。</li> <li>●自分の持ち物に対する意識が低い生徒もいる。ロッカーの整理や教室・部室の美化に努める。</li> <li>●生徒自身の服装容儀に対する意識と要望、保護者・社会の考え方をリサーチし、職員間で共有し、今後の指導のあり方をまとめる。</li> </ul>	3	3.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○とても気持ちの良いあいさつをしてくれます。</li> <li>●コロナ禍で生徒も保護者も意識の改革が必要。身だしなみは生活の基本。多様性にも考慮していくことも大切。</li> <li>○なかなか北高生の登下校を見かけることはないが、悪い噂を聞くこともない。</li> <li>●大阪の学校では防寒着の着用をめぐって、校則を優先させ、体調を壊してしまった例があった。生徒とのコミュニケーションが取れていれば防げた事例だと思う。校則は置いておいて、まずは、生徒の意見をしっかり聞いて欲しい。日頃から誰のための校則なのか、根拠を含めしっかり説明して欲しい。</li> </ul>
	安心・安全な学校づくり、思いやりの心の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒会総務役員選挙と連動し、主権者教育を実施した。</li> <li>○服装規定の一部改定により、生徒の健康管理を目的とした基準を策定した。</li> <li>○交通安全教室を実施し、自転車の安全指導を行ったが、接触事故の件数が一時期増加傾向にあった。</li> <li>●端末に関わるトラブルについては日常的に起こりうる事案として、日頃から情報モラルについて発信する。「法に触れるから全てを禁止する」のではなく「どのように使えば安全なのか」と考えさせる機会をつくる。また、メディアやSNS発信内容に対するクリティカルシンキングの姿勢も育成する。</li> </ul>	2	2.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>●SNSの対応は表に見えない部分もあるので、とても難しい問題。</li> <li>●スマホを見ながら自転車を運転したり、並進での走行を見かけます。</li> <li>●SNSトラブルは今後課題が考えられます。家庭でできることは家庭で、学校での指導も継続的にお願いします。</li> <li>●SNS内の見えないいじめ、見えない暴力、パワハラ、アカハラ・・・。先生方には大変悩ましい時代になったと思います。本当にご苦勞様です。講座等でメディアリテラシーを高めて欲しい。</li> </ul>
	「文武不岐」の精神に則った自主活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○北辰タイムを活用し、学習の補強と部活動を両立させる生活も定着してきた。</li> <li>●感染症拡大防止に努め、ガイドラインに則って活動を継続する。また、運動部文化部問わず練習中の事故の未然防止に努める。校内施設の危険個所の有無を部顧問の先生方に確認していただき、安全な環境での活動を行う。</li> <li>●北辰タイムに伴う適切な部活動(練習)と大会前10日間の練習延長期間(テスト期間含む)の適切な運用を図る。</li> <li>●ボランティア活動の案内に関しては集約や連絡が煩雑になることも現在の課題である。参加の可否と個人のスケジュール管理を学ぶ機会と捉えて案内する。</li> </ul>	4	4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>○主体的に学ぶ姿勢を育てるには良いと思います。</li> <li>○部活動に関しては新聞等で活躍が紹介されているのを見るにつけ、元気をもらっている。今後も勉学との両立を図り頑張りたい。来年度はコロナ禍の対策も大幅に軽減されることが予想されているので、子供たちには存分に励んで欲しい。</li> </ul>

	<p>いじめのない学校、教育相談体制の推進と、生徒支援・配慮の確立</p>	<p>○通級指導の実施。該当生徒はライフスキルを高め、生活における具体的な場面での対応の仕方を身に着けさせることができた。</p> <p>○スクールカウンセラーによる職員研修を実施した。多様な生徒達への支援を行い、行動特徴のうちの「感覚処理」の理解を深めた。</p> <p>○「学校いじめ防止基本方針」の職員・生徒理解の推進及びプログラム実践を行った。</p> <p>○保護者、地域、外部との協同による信頼される学校づくりの指導・支援として、宮崎市北支部の青少協、住吉地区青少協との連携ができた。</p> <p>●困り感のある生徒からの現在の状況を聞き、適切に対処する。今後、支援・配慮が必要な場合にはケース会議等を通して共通理解を図る。</p> <p>●生徒理解のための職員研修は今後も機会を見つけ実施する。加えて人権に関わる職員研修を計画する。</p> <p>●今後も学校に対する要望等は生徒の意識だけでなく保護者の意識も含めて調査し、職員間で共有する。宮崎市の児童生徒の安全面で地域との連携を今後も積極的に継続していき、地域の情報共有に努める。</p>	<p>3</p>	<p>3.2</p>	<p>○加害者側を責めると言うよりも、「繰り返し」を防ぐという観点で指導する取組は良いと思います。</p> <p>○先生方と地域の協力ができています。</p> <p>●スクールカウンセラーはまだまだ少ないと感じます。以前と比べ悩みを持った生徒が多くなっていることから対応も大変ですが、冷静な対応と関係機関との連携をお願いいたします。</p> <p>○通級指導が行われていることを初めて知った。周りの生徒にも多様性や助け合う心を育てると考えている。</p> <p>●家庭と学校の狭い世界で生きている子供たちは、いじめ等の生きにくいことが発生してしまうと行き場がない。傾聴を心がけ、しっかり対応して欲しい。一人残さず北高3年間の思い出が人生最高となるように。</p>
--	---------------------------------------	---	----------	------------	---

令和4年度 宮崎県立宮崎北高等学校 学校関係者評価書 No.3

4段階評価 4 期待以上 3 ほぼ期待通り 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

評価分野	目標・計画 (P)	実践 (D)・改善 (A)	自己評価 (C)	関係者評価	学校関係者評価コメント
	評価指標	○成果と現状 ●課題と改善策			
進路指導に関する分野	生徒が、将来への展望と学年に応じた具体的進路目標を持つような支援をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教養講座のみ年間7回の希望制としたことで、教養講座の参加者が増加した。</li> <li>●体育館を利用することですべてを実施することができたが、特に問題がなければ同様の対応で進める。</li> <li>○3年生の9月に進路講演会を実施したことで、星琳祭後の切り替えには良い時期であった。</li> <li>●次年度は文化祭の終了直後の6月下旬の実施も検討する。</li> </ul>	3	3.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の関わる社会を広げる良い機会なので積極的に実施していただきたい。</li> <li>●行事の開催時期は大事ですね。多くの生徒が進路について考える機会を設けていただきたい。</li> <li>○暗いニュースが圧倒的に多い中でも、大人が楽しんで仕事をしている、人生を楽しんでいるという姿が伝わるといいですね。</li> </ul>
	3カ年間の系統的な進路指導が行えるような指導体制を確立する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第1回校内実力考査(7月)は3年生のみの実施、1,2年生は9月に実施した。第2回実力テストは1月に実施した。</li> <li>●模試や進路に関する諸行事について全職員に理解してもらえるような工夫をする。</li> <li>●LHRを活用した進路指導について、直前の模試の目標設定並びに、文理選択、志望校研究などを実施するなどして、進路意識の向上にさらに努める。</li> </ul>	2	2.8	
	学力向上策を具体化させ、二次試験で勝負できる生徒の育成に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1、2年生の北辰タイムは2学期から計画的に実施できた。</li> <li>○タ課外の完全希望制に伴い、2学期の受講者は8割程度であった。</li> <li>○8月にベネッセの講師を迎えて「学力向上委員会」を行い、学力の向上に対する具体的な取り組みを話し合い、共通理解を得た。</li> <li>○対外模試については、進路指導を行う上で重要な資料となるので、希望は取るが、原則全員受験で行った。</li> <li>●定期テスト、校内実力テスト、対外模試をうまく活用し、基礎基本の定着⇒応用力の育成に向けて、真の学力養成へとつなげる。</li> <li>●推薦入試に向けた指導と2次試験に向けた指導がバランスよく行えるように、指導体制の在り方をしっかり考えていく。</li> <li>●北辰タイムの振り返り等を行いながら、次年度に向けて検証し、今後どのような形が望ましいかを検討する。</li> </ul>	3	3.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全生徒の学力向上に向けての学校側の考え方は素晴らしいです。</li> <li>●先生方の授業力に差が出ないように、研究授業等の充実を。</li> </ul>

令和4年度 宮崎県立宮崎北高等学校 学校関係者評価書 No.4

4段階評価 4 期待以上 3 ほぼ期待通り 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

評価分野	目標・計画 (P)	実践 (D)・改善 (A)	自己評価 (C)	関係者評価	学校関係者評価コメント
	評価指標	○成果と現状 ●課題と改善策			
教育開発に関する分野	SSH事業の円滑な運営と推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○2回のSSH運営指導委員会(7月・11月)を教育開発部員で無事実施できた。</li> <li>○担当者が「事務マニュアル」を熟読し、ほぼ完璧に頭に入れているため、大きな問題もなく経理事務を遂行できた。</li> <li>●対面とリモートの併用型は当たり前なので、よりよい設定方法を模索し、共有する。</li> <li>●部内でも共有し、一人に負担が大きくなるようにしない。</li> </ul>	3	3.0	○SSH運営ご苦勞様です。
	地域探究の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>△校内教員への連絡や情報共有が不十分であった。</li> <li>○外部機関の力も借りながら、生徒にとって実りのあるプログラムの作成に取り組んだ。</li> <li>○企業訪問(1年)や校外調査(2年)など生徒を外に出す活動を無事に実施できた。</li> <li>●学年団職員の意見も取り入れ、内容の充実を図る。</li> <li>●ACT委員会とACT連絡会を効果的に実施する。</li> <li>●早めの指導案提示を行う。</li> <li>●失敗を恐れずに前向きに取り組む、職員の理解を得る。</li> <li>●ノウハウを整理し、生徒が校外に行きやすい(行っても安心な)雰囲気を作る。</li> </ul>	3	3.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒は楽しみにしているようです。</li> <li>●様々な企業・官公庁とふれあえる機会でもあるので、積極的に活用して欲しい。</li> </ul>
	科学探究の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○プレ探究活動の内容は充実しており、完成が見えてきた。</li> <li>△一部の先生の負担が大きく、担当者変更などが発生した。</li> <li>○多くの教員が関わることができた。</li> <li>○DSの統計処理は教材が完成に近づいた。</li> <li>○MFはクラフト、プログラミングともに内容が充実し教材として完成した。</li> <li>○2年科学探究ではサイエンス科の複数教員による指導が完成し、効果的に運用された。年度途中の時間割変更によって指導者打ち合わせ会ができなくなったが、システムとしては完成した。</li> <li>●次年度に向けて充実・効率化・精選を行う。</li> <li>●全員での開発体制・指導體制を整える。</li> <li>●画像処理やプログラミングは継続的に開発を行い、今後も完成度を高める。</li> <li>●指導法をさらに洗練させるとともに、広く公開できるものにする。</li> <li>●SSH4期5年目に向けて、各プレ探究活動や科学探究の指導書の作成を行う。</li> </ul>	4	3.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>●取り組んでいる内容は素晴らしく、準備等も大変だと思います。ただ、認知度には課題があると思います。</li> <li>●chatGPTをはじめとする対話型AIが台頭してきている。既存のプログラミングも質問するとほぼ完璧なコードを返してくれるようになってきている。開発現場は今後大きく変わって行くであろう。創造性と問題点を発見できる力を養わないといけない。</li> </ul>
	国際交流の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多文化共生講座で中国、ザンビアを実施した。</li> <li>○第1回北高1日国際理解研修会を10人の外国人を招き、41名の生徒を対象に生目の杜遊古館にて実施し、生徒に貴重な体験をさせることができた。</li> <li>○姉妹校のタイカセサート大付属高校とオンラインの交流を行うことができた。</li> <li>○スター国際クラブを毎週一回昼休みに実施し、国際交流の準備や実践的な英語力の養成を行った。</li> <li>○1, 2年生対象に台湾の大学の説明会を実施した。</li> <li>○国際理解講座として「韓国料理を通じての韓国文化を知る」を実施した</li> <li>●姉妹校、タイのカセサート大学付属高校との交流の募集を行う。</li> <li>●さくらサイエンスプロジェクトを申請する。</li> <li>●いわゆる英語を母国語とする先進国との交流を行う。</li> <li>●業務を精選し、他分掌への移行を進める。</li> </ul>	3	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国際交流事業は魅力的です。今後も実施をお願いいたします。</li> <li>●コロナ禍の終息を見据えて、海外への修学旅行、交換留学など国際交流を活発にして欲しい。</li> <li>●トビタテ留学ジャパンなど、補助を受け入れる留学制度を紹介して欲しい。</li> </ul>

	普及活動の充実	<p>○プレスリリースをうまく活用し、多くの行事がメディアに取り上げられた。(広報活動次第で効果は増す)</p> <p>△ホームページの充実が必要である。</p> <p>○科学探究の研究内容や進捗を校外の人に伝えるためのサイトを作成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●リリースする手段を全職員で共有し、学校全体をアピールする。</li> <li>●ホームページについては教育開発部内ではなく、専門の部署を検討する。</li> <li>●ホームページについては積極的に活用して使用感を検証する。</li> </ul>	3	3.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>●HPが学校をアピールする有効な手段だと思います。専門部署を検討することは良いことだと思います。</li> <li>●プレスリリースして既存のメディアへの発信も重要だが、議事録にもあったように、ネット社会である。新聞も購読率低下、テレビの視聴率低下が甚だしい。SNS等へ自ら発信しても良いのではないか。</li> </ul>
--	---------	---	---	-----	---

令和4年度 宮崎県立宮崎北高等学校 学校関係者評価書 No.5

4段階評価 4 期待以上 3 ほぼ期待通り 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

評価分野	目標・計画 (P)	実践 (D)・改善 (A)	自己評価 (C)	関係者評価	学校関係者評価コメント
	評価指標	○成果と現状 ●課題と改善策			
サイエンス科に関する分野	探究活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教育開発部と連携し、ACT-SI, MF, FWの指導を全職員で行った。</li> <li>○外部大会の参加について、積極的にサポートした。(声かけ, 引率, オンライン対応)</li> <li>●生徒たちの研究支援に尽力する。</li> <li>●ACT-SIでは指導体制やツールについて引き続き検討する。MF, FWともにこれまで以上に担任・副担任が関わる。</li> </ul>	3	3.0	○外部大会等での活躍を期待しております。
	生活指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○通級指導担当と連携し、特性のある生徒の早期把握と手厚い早期対応に努めた。</li> <li>○協調性やコミュニケーション力の養成を目的に、ピア・サポート活動を学期1回行った。毎学期、通級指導担当教員と相談し学年に応じ</li> <li>○特色ある教育課程等実践研究推進校の指定のもと、2・3年生を2クラスに編成した。面談の回数が増え、困り感の把握や生徒間トラブルの早期発見など成果が出た。たテーマを決定した。</li> <li>●2・3年生の2クラス編成については、授業形態や学校行事関係など、検証を行う。</li> </ul>	3	3.0	○今年度から2、3年の2クラス制ということで、面談増加などの成果が出て良かった。先生方の負担が増えたのでは。
	学習指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習につまずいている生徒に対して担任・副担任が積極的に関わった。</li> <li>○サイエンス科単独での教科担任会(1・2年で年2回)・進路検討会(3年で年1回)を開催し、クラス・個人への指導について協議した。</li> <li>○朝夕のSHR前の10分間を学習時間として習慣づけた。</li> <li>○サイエンス科単独での難関大クラブを設置し、難関大学・学部への確実な合格を目指した。</li> <li>●科単独の取組については北辰タイムとの兼ね合いなどの運用について検討する。</li> <li>●サイエンス科生としてのプライドを醸成していくためにも学力養成は不可欠である。そのため仕掛けをサイエンス科会で検討し、次年度につなげる。</li> </ul>	3	3.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報共有への取組はとても大切だと思います。</li> <li>○サイエンス科の頑張りや成績は普通科への良い影響を与えていると思う。充実している姿を見せていきたい。</li> </ul>
	進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研究成果や実績のある生徒が積極的に学校推薦型選抜や総合型選抜を用いて活用できる支援を行った。</li> <li>○3年生だけのサイエンス科集会を2回開催した。先輩からのメッセージ(文書並びにボイスメッセージ)や職員から激励など、進路意識の高揚を図った。</li> <li>●3年生の進路状況を踏まえ、学校推薦型選抜や総合型選抜に対応できるACT-SIや外部の講演会・研修会を検討する。</li> </ul>	3	3.0	●OB、OGを活用した、大学のその先の活躍がたくさん紹介できると良い。私もサイエンス科を卒業した生徒がどんな活躍をしているのか知りたい。
	学科活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○サイエンス科集会を学期1回行い、帰属意識や進路・学習・探究に関する意識の高揚を図ることができた。</li> <li>○わくわくサイエンス教室を年2回行い、サイエンス科で行っている活動を広く広報した。参加者(生徒・保護者)のアンケート結果は非常に好評であった。生徒実行委員会の企画・運営が後輩に上手く継承された。</li> <li>○オープンスクールや中学校訪問にて教育内容の説明や体験講座を行った。また、今年度は塾向けの説明会を精力的に行った。</li> <li>○サイエンス科独自パンフレットおよびDVDを作成し、様々な場面で広報した。</li> <li>○学校HPにサイエンス科ページを新規に作成した。</li> <li>●第5期SSH指定に向けて、サイエンス科の魅力づくりについて、サイエンス科会で引き続き議論を行う。</li> </ul>	3	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>○北高サイエンス科はこれまで様々な活動をされています。サイエンス科独自の取り組みをお願いし、魅力的なサイエンス科を望みます。</li> <li>○様々な工夫をしてPRができていると感じる。今後も北高が活気ある学校となるように続けて欲しい。</li> </ul>